

「みがき合い、支え合う、心豊かでたくましく生きる生徒をめざす」 【9月の学校経営方針】

◎「リスタート」→何のために、何をどのように取り組むのか？

別紙「1学期の重点目標に対する教職員のアンケート」結果から
<成果>

「授業改善」については、課題設定や学習形態の工夫、教室環境、授業ルールについては前向きに進められている。日常の授業も大変落ち着きが感じられ、集中して取り組んでいた。「心の教育」については主体的な活動や対話的な活動、自己決定・有用感・共感的な人間関係といった生徒指導の機能等を生かした活動等がいじめ根絶にもつながるという意識を持つことに意義があり、いじめアンケートの結果にも反映されていたのが大きい。各学年の校外学習での成果が日常活動に生かされたのも効果的であった。「三つの伝統」については、歌声活動が交歓会にもつなげられたので大きな成果が得られた。また、今年度組み込んだ「地域貢献」については、具体的な取り組みに手が付けられていない状況が認識された。生徒の意識についても学校教育目標の認知や校内での挨拶、教室環境整備、主体的な活動の項目は、概ね良好であった。

<課題>

学習では授業や単元の最後の「まとめ」に対する取り組みがまだまだであるとの認識が得られた。この授業で「何がわかればいいのか。」「何ができるようになるのか」という授業のねらいを明確にし、最後に評価問題に取り組んだり、振り返りを確実にを行い、表現できるようにしたりすることがとても大切である。これが各教科・各学年での大きな課題となっている。長欠対策や適応教室の取り組み、挨拶・無言清掃に対する取り組みもそれぞれの課題や原因を明確にし、具体的な手立てを講じていかなければならない。はっきり取り組んでいるという意識が持っていないので、具体的にやり切る必要がある。

1学期の「振り返り」を基に、何となく漠然と取り組むのではなく、確実にやることを決め、実践・評価することで現状を改善していきたい。「まあまあ」という評価ではなく「やれた」「できた」という実感を伴う取り組みを心がけていきたい。

9月は次の3点に力を入れて取り組みたい。

- ① **「勇気と元気と笑顔**を創る体育祭」…一生懸命な姿で感動を創る。（「公開すること」の意味を！）
- ② **「次への意欲を引き出す授業**」…「わかった・できた」をまとめて書く。（「振り返り」の意味を！）
- ③ **「また来たくなる挨拶と環境**」…相手を思う行為を自分から表現する。（「思いやり」の意味を！）

「白山ブランド」の構築のために

（1） 授業改善（主体的・対話的で深い学び・UD）…「意欲を引き出す授業」

- ① 赤枠でまとめ、「わかったこと」や「できたこと」を自分の言葉で書く。
- ② 授業の最後のまとめや振り返りを文章（200字）記述する。
- ③ 学習形態を工夫し、個⇒ペア・グループ⇒全体⇒個の流れをつくる。
- ④ 生徒指導の機能（「自己決定」「自己有用感」「**共感的人間関係**」）を生かした「わかる授業」をする。

（2）心の教育（道徳、いじめ、生命、思いやり）…「また来たくなる挨拶と環境」

- ⑤ 学活や道徳の話し合いのテーマを明確にする。…「**思いやり**」や「**命の尊さ**」をテーマに主に！
- ⑥ 主体的な生徒活動を組織し、行事や日常生活の改善に努める。
- ⑦ 自律的な部活動を推進するために組織的に活動する。
- ⑧ いじめ根絶のための授業・生徒活動・部活動を推進する。

「みがき合い、支え合う、心豊かでたくましく生きる生徒をめざす」 【9月の学校経営方針】

（3）安全安心（健康・体力向上，メンタル，防災，食育）…「勇気と元気と笑顔を創る」

- ⑨ 健診結果に対する個別のフォローを確実にを行う。（治療勧告の徹底）
- ⑩ 連続欠席3日の報告と具体的な対応を学年で共有する。
- ⑪ 校内適応教室の生徒と継続面談を実施し、困り感の解消に努める。
- ⑫ 長欠保護者会の準備とネットワークづくりを進める。

（4）生徒主体（行事，生徒会，部活）…「勇気と元気と笑顔を創り出す体育祭」

- ⑬ 保護者や地域の方々を意識した主体的な活動を組織する。
- ⑭ Q-Uの分析結果を活用し、ルールとリレーションを意識した学級経営を生徒主体で再構築する。
- ⑮ 新チームによる部活動の組織運営を図ると共に部長会の活動を組織する。

（5）三大伝統（挨拶，歌声，清掃）

- ⑯ 「明るく元気な挨拶」→「自らの挨拶」で来校者がまた来たくなるような学校にする。
- ⑰ 「美しく響く歌声」→体育祭で歌う校歌を響かせる。
- ⑱ 「心を磨く清掃」→モデルとなる無言清掃場所を各階につくる。

（6）地域貢献（福祉教育・ボランティア活動）

- ⑲ 放課後学習ボランティア（放課後学び隊）を立ち上げる。
- ⑳ 校内外の環境整備ボランティア（環境ととのえ隊）を立ち上げる。
- ㉑ 「おやじの会」主催の「震災体験キャンプ」を主たる事業となるように進める。
- ㉒ 学校や学年，学級通信，HPの更新等による学校情報の積極的な発信を継続する。

（7）その他

- ㉓ 「いじめの定義」を理解し、いじめ根絶に向けた活動を組織する。
- ㉔ 不祥事根絶に対するボトムアップ研修を計画的に実施する。
- ㉕ 「部活動なしの日」が「定時退勤日」となるように意識し、業務改善につなげる。
- ㉖ 「報告・連絡・相談」や「確認・連絡・報告」を意識し、情報共有を積極的に行う。
- ㉗ 「求める教師像」に迫れるように校内の学習会を計画的に実施する。
- ㉘ 所長訪問を有効に活用し、授業の見直しや施設設備，関係書類を見直し，改善する。

リスタートとは、新たな目標に向けて取り組むべき事柄をより明確にしていく作業であると考えている。力のある一人の教師が推進していただくだけでは決して実らない。皆が知恵を出し合い、自分でできることを考え、協働していかなければならない。そこで大切なのがチーム感覚である。チームは群れではない。同じ学校で勤務しているから、同じ学年で働いているからチームになっているわけではない。目指すものがあり、なすべき個々の役割があり、課題や情報，進捗状況が共有される組織が初めてチームとなる。

「目標を設定して取り組めば、必ず変化が創り出される！」何故なら目標設定は、現状を改善させることを考えて設定しているから必ず変わるのである。それでも変わらないとしたら目標がみんなのものになっていなかったり、具体的な手立てが目標を目指すものになっていなかったりしたときである。

2学期のスタートにあたり、何が問題なのか、その原因がどこにあるのかをよく調べ、具体的な手立てをよく考え、共有し、実践し、評価しなければならない。「～いこう！」的なスローガンだけではうまく改善されていかない。それぞれの分掌で目標に迫るための具体的な手立てを考え、期間を決め、実践し、振り返り、変化の状況を可視化し、評価する。これを繰り返すことで変化（成長）となって現れてくるのである。前述の28項目を各分掌で十分に意識し、チーム対応していきたい。